

## 療養場所で変わらない治療を

### 療養場所で変わらない治療を

---

ホスピス病棟で経験を積んだ梅田さんは、「病気のために納得のいく時間を過ごせていない人に、どうしたらもっと力になれるか」を学ぶために、看護大学に入る。以来、イギリスをはじめとした海外で緩和ケアの研修を受けたり、大学院に行ったりと「学ぶ」と「現場で働く」ことを交互に繰り返してきた。

現在は、大学病院で非常勤として働きながら、看護師を対象にした教育と、緩和ケアを必要とする患者さんやご家族への相談事業を行う「株式会社緩和ケアパートナーズ」を立ち上げて活動している。

病気をきっかけに生きにくくなった人が、もっと自分らしく生きられるように。治療を始めても自分の人生を生きられるように。

そのサポートをしたいというのが、梅田さんがめざすことだ。これを叶えるには、「どんな場所でも望む医療が受けられるよう、医療者の意識を変えることと、『あなたが選んでいいんですよ』と患者さんを力づけることが必要」と梅田さんは言う。



「『家で療養しているから抗がん剤は使えない』『在宅だったら点滴はしないけれど、病院だったらこういうとき点滴しますよね』といった話を耳にすると、とても悔しい。『病院でも家でも、あるいはホームのような居宅でも、患者さんにとって適切な医療が提供できたら』と思ってしまいます。薬を使うかどうか、点滴をするかどうかは、家にいようと病院にいようと変わらないはずですが、在宅だと十分な治療ができない、病院だと何か治療をやらなくてはいけない。「どこにいるか」で治療が変わるということが往々にしてあるという。

「看護師の意識も、『病院』『在宅』など"場所に所属しているナース"になっているのだと思います。その意識を、患者さん一人ひとりの希望を叶える"患者さん専属のナース"に変えていきたいのです」

- 印刷
- PDF

---

Source URL: <https://www.novartis.com/jp-ja/treatment-that-does-not-change-medical-treatment-place>

List of links present in page

- <https://www.novartis.com/jp-ja/jp-ja/treatment-that-does-not-change-medical-treatment-place>
- <https://www.novartis.com/jp-ja/jp-ja/node/13921/printable/print>
- <https://www.novartis.com/jp-ja/jp-ja/node/13921/printable/pdf>